

授業展開案 高等学校国語「国語総合」

1 テーマ

『平家物語』

2 ICT利活用のねらい

『平家物語』より「木曾の最期」を教材とし、読まれ続けてきた価値あるものとして古典を捉える能力を身に付けさせる。ICT機器を用いて、合戦のシーンや登場人物の心情を分かりやすく示すことで、生徒が古典を主体的に読もうとする姿勢を育成する。

3 利活用するICT機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板

②教材：「平家物語」(Microsoft PowerPoint)

4 ICT利活用の場面

学習内容	ICT利活用の場面
<p>「木曾の最期」に至るまでの経緯を確認する。</p> <p>音便を確認する。</p> <p>敬語が使用されている部分を三か所現代語訳する。</p> <p>「御身もいまだ疲れさせ給はず」と「御身は疲れさせ給ひて候ふ」の二つの発言について考える。</p>	<p>①動機付け：デジタル教科書を使用し、これまでのあらすじ等を確認する。</p> <p>②説明の補助：スライドを使用し、本文中から音便を抜き出して示す。</p> <p>③説明の補助：スライドを使用し、敬語に注意することを確認しながら、現代語訳を表示する。</p> <div data-bbox="874 1267 1369 1576" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「あつばれ、よからう敵がな。最後のいくさして見せてたてまつらん。」とてひかえたるところに武蔵の国に聞こえたる大力、御田八郎師重、三十騎ばかりで出できたり。巴の中へ駆け入り御田八郎に押し並べて、むずととつて引き落とし、わが乗つたる鞍の前輪に押しつけて、ちつとも働かさず、首ねじ切つて捨ててんげり。その後、物具脱ぎ捨て東国の方へ落ちぞ行く。最後の戦いをして(兼平さま)お見せ申しあげましょう。</p> </div> <p>④説明の補助：スライドを使用し、矛盾した発言をする兼平の真意についてまとめる。</p> <div data-bbox="874 1747 1369 2056" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>兼平の二つの言葉について①</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「御身は疲れさせ給ひて候ふ。」</div> <div style="font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「御身もいまだ疲れさせ給はず。」</div> </div> </div>

5 ICT利活用のポイント

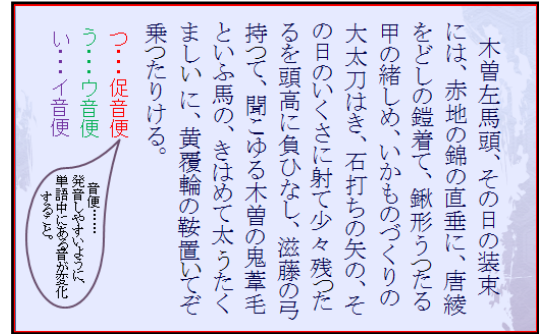
①動機付け

デジタル教科書を使用して、これまでのあらすじや、物語の舞台となっている場所及び戦(いくさ)の状況を確認させる。

②説明の補助

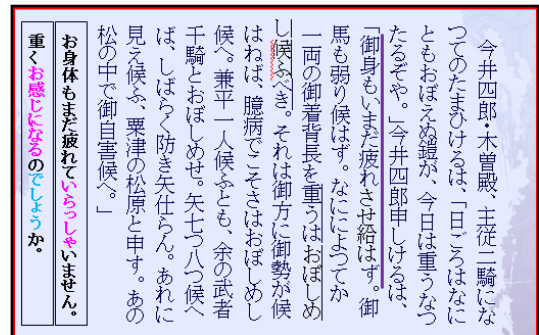
文中からイ音便・ウ音便・撥音便・促音便の四種類の音便を抜き出させ、文法的に説明させる。

スライドを使用して『平家物語』は、琵琶法師によって平曲として語られたため、発音しやすいように単語中にある音が変化する音便が多用されていることを押さえさせる。



③説明の補助

尊敬・謙譲・丁寧の三種類の敬語を色分けし、視覚的に捉えやすいように示した。敬語を理解し、正確に現代語訳ができるようにする。その際、ただ直訳するだけでなく、物語の状況に合う言葉遣いも工夫しながら現代語訳を行うようにさせる。



④説明の補助

スライドを提示して、兼平が「御身もいまだ疲れさせ給はず。」と「御身は疲れさせ給ひて候ふ。」という矛盾した言葉を発している理由と、その中に共通する義仲への思いを捉える。

